

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

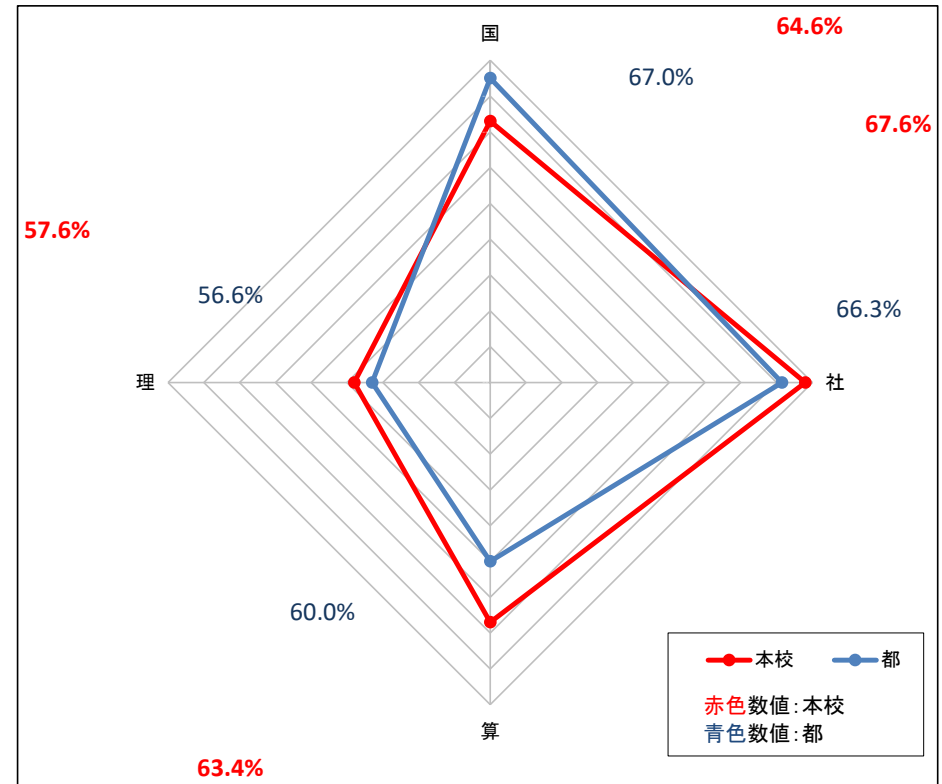
第七葛西小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	66.3%	69.1%	64.9%	61.7%	64.6%
都との差	0.4	-1.8	-2.2	-4.2	-2.4

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	64.1%	67.2%	72.7%	67.6%
都との差	1.0	0.7	2.9	1.3

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	50.1%	70.4%	66.8%	63.4%
都との差	3.7	5.2	-1.0	3.4

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	54.2%	65.2%	56.8%	57.6%
都との差	1.3	-1.2	1.8	1.0



《都との比較にみる本校の状況》

教科の合計を見ると、国語が東京都の平均から-2.4%となっている他は、概ね良好な結果を示している。観点別に見ると、国語では、「言語についての知識・理解・技能」が、都対比-4.2%と大きく下回っている。また、算数においては、「数量や図形についての知識・理解」が-1.0%、理科においては、「観察・実験の技能」が-1.2%とそれぞれ下回っている。これらの点が今後の授業を行う上での改善の対象となる。

その他の観点について見ると、児童は、社会の「社会的事象についての知識・理解」や、算数の「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」に興味、関心を持ち、日々の学習活動に臨んでいることがわかる。これらの力をさらに伸ばしつつ、課題を乗り越えられるような授業を展開することや、児童の家庭学習における習慣の改善が必要となる。

《授業改善のポイント》

国語の「言語についての知識・理解・技能」については、漢字の読み書きを、ただ反復させるだけではなく、どのような場面で使うのかを実際の文例と組み合わせる必要がある。また、文章を書く際には、既習の漢字を必ず使うように指導し、それを根気よくチェックしていく。さらに、漢字の他にも、単語などの意味や使用場面など、児童が自ら調べられるような環境を整え、それらを積極的に使うように導いていく。

算数の「数量や図形についての知識・理解」については、長さやかさ、大きさなどの単位相互の関係や、図形のもつ特徴について知識を定着させるよう、機会をとらえて指導していく。

理科の「観察・実験の技能」については、虫眼鏡と対象物の扱いや、顕微鏡を用いた実験方法など、実験器具の名称だけでなく、どのように器具を扱うのかや、実験の条件制御をどう行うのかを理解するように指導していく。

《家庭・地域への働きかけ》

4月、10月、2月と各学期に1回実施している「家庭学習週間」において、確かな学力の向上に向けて、家庭での学習習慣の確認と児童への啓発を行い、基礎学力の定着を目指す。また、日常会話などの基本的習慣から言語活動を意識することが学力向上と密接に関わっていることを家庭・地域と共有し、連携を図る。